

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巢ひまわり(花梨棟)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成23年12月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170700468&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が安心安全で楽しく明るく過ごしてもらうことを大切に運営をしている。開設してあと2ヶ月で9年目を迎える。多くの職員が開設時から働いてくれ有資格者も増員できている。家庭環境や家族構成からGHを選択される方が日増しに多くなるがご要望にすべて応えられない(満床)ことがつらい。地域の福祉資源の情報をより多く収集し相談所の役割もできるような今後も努めてゆきたい。ご利用者の保健管理を重点化しレクには工夫を重ねて充実した生活を継続できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から9年目を迎え、利用者の高齢化、重度化も進んでいる。その中において、利用者の充実した生活の継続と、満足が得られるように積極的な取り組みを行っている。特に、投資を伴う機械浴を導入し、負担感のない快適な入浴を提供している。さらに、生きるための基本である食の意欲を促す、歯科診療と口腔ケアを充実させ、健康的な暮らしにつなげている。排泄でも、オムツの専門家に指導を依頼し、快適な排泄支援に取り組んでいる。職員は、利用者の慣れ親しんだ生活様式を支え、持てる力を発揮できるように、心をこめて、生きがいのある暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(花梨棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より手を出すな・口を出すな・見落とすなフレーズを大切にきたが現在、新しい理念を検討している。笑顔を決やさず一人一人が安心した生活が送れるようより良い施設を心がけている。	理念は「手をだすな、口をだすな、見落とすな」を開設時より掲げている。毎朝ミーティングで唱和し、共有しながら、自信と感情が生まれる暮らしを支援している。次年度より、地域密着型の意義をふまえた、新たな理念の見直しを計画している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では地域の代表者との関わりを持ち事業内容の報告や防災面では緊急通報システムへの協力が実現した。また地域行事へお誘いを受け参加している。	地域の行事や、小学校の年間行事に招待を受け参加している。地域の支援学級の生徒や、高校生の職場体験も受け入れている。地域の人が、介護の困りごと相談などに気軽に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談機関としての役割も果たしていると感じている。運営推進会議では現状の認知症についての話題や情報提供にも努めている。本年は支援学級(高校)に職場体験として施設開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の取り組みについて理解を深めて頂いている。また防災訓練の様子等も報告し地域住民の皆さんの協力を頂けるように働きかけ緊急通報訓練の実施をしたらどうか等積極的な意見を頂き計画をしている。	会議は、行政、自治会長、老人会長、民生委員、消防署、家族が参加し、隔月に開催している。前年は、防災を重点に討議を行い、その結果、15ヶ所へ同時に通報できる装置を完備し、迅速な行動ができるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町高齢福祉課や包括・在宅支援センター等の協働体制は整っている。お互いの情報の共有に努め協力しより一層地域連携に努めていきたいと思っている。	本人・家族の生活課題を市に相談し、協力して対応している。また、行政手続きで助言を受けたり、地域の福祉・医療問題でも情報を交換している。運営上の課題についても、随時相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については「しないを原則」に取り組んでいるがご本人の安全、安楽の確保が出来ない場合や他入居者への影響がある場合はご家族に説明承諾を得た上で実施している。また不拘束委員会を立ち上げ定期的に話し合い見直しを行っている。	法人内に、不拘束委員会を設置し、拘束をしない方針で取り組んでいる。ただし、安全上、避けがたい人には、家族の了承を得て、最小限に留める工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無意識下での虐待に当たる行為や言葉の暴力が無い見直ししている。講演会や勉強会などで意識付けを行っている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利を守ろうとする意識は高まってきているが、成年後見人制度については働きかけをするが制度面・家族理解面で難しいときがある。高齢者の尊厳保持の根幹に係わることを職員で共有し推進してゆきたい。研修はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族と十分話し合い合意の上で締結、解約、改定等を行っている。例えば、今年度の特浴導入時には家族会を開き部屋替え等にも全入居者家族の同意を得た上で実施した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人や家族の要望は可能な限りサービスに反映できるように職員間でも話し合う機会を設けている。また家族へは毎月のひまわり通信と共にこの1ヶ月間で起った出来事や変化等を記入し個別に情報提供している。	家族へは、本人の様子を「ひまわり通信」で報告し、意見を求めている。さらに、訪問時や電話でも、意見・要望を聞き取っている。家族からは、満足の声が多いが、要望等には、速やかに対処できる体制を取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度の3施設長会議により、それぞれの施設の報告と意見交換や要望を検討する機会が設けられている。会議で出た意見や提案に対して対応して頂いている。	管理者は、毎朝のミーティングで職員から意見を聞いている。職員からは、設備の改善や新しい理念の変更等の提案がある。意見・提案は、リーダー会議で検討し、優先順位を考えて、改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児休暇や産前産後の対応等も整いつつあり若い職員も働きやすい環境になっている。また積極的な研修参加や資格取得の支援等にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力経験等と踏まえ積極的に外部研修等を推進している。また資格取得にも積極的でありケアの質の向上にも努める様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜GH協議会の幹部役員としても会議には積極的に参加しよりよいサービスの向上を目指し働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み後本人確認面談を行い情報を確認し支援内容を話し合います。出来るだけ家族、本人の希望がかなえられるよう心身ともに支援できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用までの経過や家族の想い家庭環境や関係等を傾聴時には共感やアドバイス等を通してより良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人面談や施設見学にて入居当日からスムーズな介護が提供できるように努めている。また医師の診療情報や前施設、支援センターへ情報提供をお願いしている。即時対応出来ない場合は他の事業所への仲介やアドバイス等を行う支援は多くある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさが表現できるような介護を心がけている。また職員は自分の家族であるかのように接する事を心がけ共に笑い、怒り、感動できる関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちやそれぞれの立場などを尊重し個々の家族にあった対応に心がけている。また家族との連携にも心がけ日常の様子などを1ヶ月に1度は手紙にして報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着となりご近所の方や知り合いの方の入居も多くなってきた。昔話に花が咲くと言うような場面も多くみられている。ご家族への配慮も必要であり希望があれば棟を変える等の配慮もしている。	知人・友人、親戚などの訪問が頻繁にあり、面談の場面を支援している。馴染みの商店や名勝地へは、ドライブをかねて、職員と一緒に継続的に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係には配慮している。一緒にいて悪影響となる場合など部屋替えや棟を変える等の配慮をする場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰又は長期入院後も、状況や他サービスへの移行の場合でも情報提供は積極に行いその後の経過も出来る限り把握し、支援できるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向を出来るだけ把握できるようにご家族や前サービス事業者などからも情報収集を行いサービスに生かす事が出来るように努めている。	日々の生活の中で、思いや意向を把握している。困難な場合は、傾聴しながら思いを汲み取っている。把握した事柄は、ホームで命名した「ひもときシート」に記録し、本人にとって、より良い暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前サービス事業者等と入居前より関わり情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活状況や家庭環境。性格や趣味、認知症原因疾患やその程度など本人確認は無論のこと家族、前施設やサービス提供者等からも情報提供が得られ対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントツールをひもときネットへと変更し、よりご本人や家族の希望が反映でき、入居者一人一人に即した介護サービスが提供できるように努めている。	個人記録と「ひもときシート」を基に、本人・家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。本人、家族の要望や変化が生じた場合は、モニタリングを繰り返し、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼間の様子と夜間の様子、体温などのバイタルサインの記入と必要事項を的確に記入するようになっている。また発熱等の状態変化やいつもと違う様子等の記入の必要があれば重症記録に切り替えより詳しく記入するよう指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望から在宅支援センターや役場等と何度も話し合いを重ねた結果在宅復帰を果たされた方もある。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや役場、他の施設や病院等と情報交換等を行い地域との連携を図ることでよりふさわしい個々のニーズやレベルあった施設等の紹介をする事も出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の継続を励行しており家族の協力を得てリハビリ等の通院を行っている方もある。ただ、家族の環境等による通院が難しく歯科、精神科などを含め提携医への移行も多いが柔軟に対応している。	利用前のかかりつけ医を継続するか、協力医に変更するかは、自由に選択してもらっている。協力医は月に2回、歯科医は月に2回、精神科医は月に1回、それぞれ訪問診察があり、安心して医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は現場に入り定期的に夜勤も行うことで入居者の日中の状況だけでなく夜間帯の状況も把握し必要な事柄はアドバイスしている。医師(内・精神)、歯科医師との連携も十分出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった経過などの情報提供は積極的に行っている。また入院中も家族や相談員などとの連絡も密にとり状態の把握に努めて、適切な対応が出来るように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望がかなえられるように医師、看護師、介護者等が話し合いターミナルケアにも取り組んでいる。十分な説明とその都度家族の意向を確認し受け止め、何度も話し合い納得のいく最後をホームで迎えられるように努めています。	重度化や終末期に対応した受け入れ体制を整えている。家族とは、同意書を交わし、十分な説明を行い、その都度、意向を確認し、納得のいく最期を迎えられるように取り組んでいる。看取りの実績も積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成と救急対応については事あるごとに話し指導している。緊急時の連絡体制も整備し機能している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を消防署の指導を受けて実施している。今年度は放水の実施も行った。職員の人数の少ない夜間設定での火災訓練は何度も繰り返し行う必要があると思っている。また地震に対する訓練も行い来年度は起震車での体験も予定している。	年に2回、消防署の指導の下で、避難誘導、消火、通報訓練等を行っている。スプリンクラーも完備している。1回線で、15ヶ所に連絡できる通報装置を設け、関係機関や地域の協力者に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの個性や誇り、思いを尊重するようにしている。	人格や誇りを尊重し、言葉かけに配慮した対応を行っている。相手の目線で、話を良く聴き、笑顔で話しかけるように徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己にて決定できる場面の提供を行っている。認知の重度化により自己決定出来ない利用者については職員本位にならないように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているがそれ以外は自由である。個々の希望や気分に対し柔軟に対応している。職員本位にならないようには注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日会や特別行事日にお化粧を希望される方にはお化粧の手助けや定期的な理髪や毛染めの援助を行っている。また個別に化粧品や服など欲しいものがある時には希望に応じ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い調理している。献立を敢えてなくしご利用者の要望を聞きながら提供するように努めることとしている。	常に、利用者の好みを聞きながら、季節の食材を調理している。職員は、利用者の食事の進み具合や誤嚥に注意を払いながら見守り介助をしている。食欲を促し、食を楽しむためにも歯科診療と口腔ケアの実践に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や好み、形態に配慮し個々に合わせている。水分量も確保できるようおやつや食事で最低限摂取して必要な水分量は提供している。また糖尿病や高血圧症の方の食事は薄味や減塩に努め、食欲不振時は栄養補助剤の提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い衛生管理に努めている。また夜間には入れ歯は預かり消毒をし週1度は歯科医師、歯科衛生士の訪問診察をうけ口腔ケアの指導を受けている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力に合わせた介助を行っている。誘導する場合も時間帯や傾向を把握し失禁を減らしトイレでの排泄につながるように努めている。またオムツを使用する場合も個々にあったオムツが選べるように専門家による講習会等に参加している。	個々の能力やリズムを把握し、トイレで排泄できるように、さり気なく声をかけ、誘導している。また、個々に合ったオムツを選択し、不快感を改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず食事、運動、腹部マッサージ等からも便秘予防に努めている。また朝トイレに座る習慣からも便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	程度の差はあるが要介護者が多く自分で入れる方でも洗髪の一部介助や衣類の選択援助、着脱の誘導を必要とする為入浴時間帯や入浴日は決まっている。また今年度は念願の特浴が設置されたことでシャワー浴や清拭であった利用者も入浴して頂けるようになった。気持ち良いと好評である。	週に2回、入浴日を設定しているが、希望に応じて柔軟に支援している。機械浴を設置し、重度の人にも安全でゆったりとした姿勢での入浴が可能になった。入浴を拒む人もなく、入浴は利用者の楽しみのひとつになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車いすの方で一日中車いすに座っている事は苦痛だと感じているので職員見守りのもとソファーに移動して頂いたり、昼食後はベッドで休んで頂き身体的負担の軽減に努めている。夜間は不眠に対しては生活習慣改善に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は必ず声掛け、職員2人で確認誤薬の防止に努めている。食前薬、隔日投与や週1での投与に関しては投薬忘れ防止の為詰所に張り出すようにしている。薬の変更や増減時には副作用を説明し注意して観察報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見、運動会、バーベキュー等の年中行事は積極的に計画し全員参加を目指している。また今年は織部の里に絵付け体験に出かける等外出することや物を作成するという楽しみも味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人を思い思いの場所にお連れする事等は出来ないが本人の希望を家族に伝え家族の協力を得て思いの場所に外出できるように働きかけている。	ホーム周辺に短い散歩コースを定め、不定期であるが散歩に出かけている。買い物、喫茶店、花見、名勝地等へは、状況に応じ、職員または家族が付き添い、出かけられるように支援している。	寒い季節はどうしても外へ出ることが億劫になりがちだが、庭に出て外気に触れたり、短時間でも戸外に出る機会を促すなど、継続した取り組みに期待したい。

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族にお任せしている。家族に了承を経て小額のみを所持されている利用者もあるが紛失やトラブルの原因にもなりかねない為最低限にとどめている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書く支援はレクの一環として行っている。電話に関しては家族と相談のもと取り次ぎ可能な時間帯や頻度などを確認している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間の中での共同生活のため入居者それぞれが気持ちよく過ごせる空間作りに配慮している。車いすのスペースを考えてテーブルやソファの配置位置も変えてみるなど配慮している。	共用の空間は、日当たりが良く、窓越しに雄大な景観が見渡せる。また、空間には、絵画や手づくり作品、季節の花を飾り、生活感を採り入れている。車椅子のままでも、使用できるように、洗面台の改修が行われている。	屋内の湿度対策として、濡れタオルなどを活用しているが、適正な数値管理ができるように、湿度計の採用を検討されたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋の中に一人で居る事が落ち着く入居者もあり自分の思い思いの空間で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	原則自由に持ってきて頂いているが、限られたスペースの中なので配慮はして頂くよう説明している。	居室には、ぬいぐるみや手づくり作品、家族の写真、テレビなど、好みの物が持ち込まれている。限られたスペースが繁雑にならないように配置し、落ち着いて寛げるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内には手すりを設置しており安全面での整備に努めている。出来る限りの対応を行い自立支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり(檜の木棟)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成23年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(檜の木棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より手を出すな・口を出すな・見落とすなのフレーズを大切にできが現在、新しい理念を検討している。笑顔を絶やさず一人一人が安心した生活が送れるようより良い施設になる様に心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では地域の代表者との関わりを持ち事業内容の報告や防災面では緊急通報システムへの協力が実現した。また地域行事へお誘いを受け参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談機関としての役割も果たしていると感じている。運営推進会議では現状の認知症についての話題や情報提供にも努めている。本年は支援学級(高校)の職場体験施設として開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の取り組みについて理解を深めて頂いている。また防災訓練の様子等も報告し地域住民の皆さんの協力を頂けるように働きかけ緊急通報訓練の実施をしたらどうか等積極的な意見を頂き計画をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町高齢福祉課や包括・在宅支援センター等の協働体制は整っている。お互いの情報の共有に努め協力しより一層地域連携に努めていきたいと思っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については「しないを原則」に取り組んでいるがご本人の安全、安寧の確保が出来ない場合や他入居者への影響がある場合はご家族に説明承諾を得た上で実施している。また不拘束委員会を立ち上げ定期的に話し合い見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無意識下での虐待に当たる行為や言葉の暴力が無いか見直している。講演会や勉強会などで意識付けを行っている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利を守ろうとする意識は高まってきているが、成年後見人制度については働きかけをするが制度面・家族理解面で難しいときがある。高齢者の尊厳保持の根幹に係わることであることを職員で共有し推進してゆきたい。研修はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族と十分話し合い合意の上で締結、解約、改定等を行っている。例えば、今年度の特浴導入時には家族会を開き部屋替え等にも全入居者家族の同意を得た上で実施した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人や家族の要望は可能な限りサービスに反映できるように職員間でも話し合う機会を設けている。また家族へは毎月のひまわり通信と共にこの1ヶ月間で起った出来事や変化等を記入し個別に情報提供している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度の3施設長会議により、それぞれの施設の報告と意見交換や要望を検討する機会が設けられている。会議で出た意見や提案に対して対応して頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児休暇や産前産後の対応等も整いつつあり若い職員も働きやすい環境になっている。また積極的な研修参加や資格取得の支援等にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力経験等と踏まえ積極的に外部研修等を推進している。また資格取得にも積極的でありケアの質の向上にも努める様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜GH協議会の幹部役員としても会議には積極的に参加しよりよいサービスの向上を目指し働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み後本人確認面談を行い情報を確認し支援内容を話し合います。出来るだけ家族、本人の希望がかなえられるよう心身ともに支援できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用までの経過や家族の思い家庭環境や関係等を傾聴時には共感やアドバイス等を通してより良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人面談や施設見学にて入居当日からスムーズな介護が提供できるように努めている。また医師の診療情報や前施設、支援センターへ情報提供をお願いしている。即時対応出来ない場合は他の事業所への仲介やアドバイス等を行う支援は多くある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさが表現できるような介護を心がけている。また職員は自分の家族であるかのように接する事を心がけ共に笑い、怒り、感動できる関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちやそれぞれの立場などを尊重し個々の家族にあった対応に心がけている。また家族との連携にも心がけ日常の様子などを1ヶ月に1度は手紙にして報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	地域密着となりご近所の方や知り合いの方の入居も多くなってきた。昔話に花が咲くと言うような場面も多くみられている。ご家族への配慮も必要であり希望があれば棟を変える等の配慮もしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係には配慮している。一緒にいて悪影響となる場合など部屋替えや棟を変える等の配慮をする場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰又は長期入院後も、状況や他サービスへの移行の場合でも情報提供は積極に行いその後の経過も出来る限り把握し、支援できるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向を出来るだけ把握できるようにご家族や前サービス事業者などからも情報収集を行いサービスに生かす事が出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前サービス事業者等と入居前より関わり情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活状況や家庭環境。性格や趣味、認知症原因疾患やその程度など本人確認は無論のこと家族、前施設やサービス提供者等からも情報提供が得られ対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントツールをひもときネットへと変更し、よりご本人や家族の希望が反映でき、入居者一人一人に即した介護サービスが提供できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼間の様子や夜間の様子、体温などのバイタルサインの記入と必要事項を的確に記入するようになっている。また発熱等の状態変化やいつもと違う様子等の記入の必要があれば重症記録に切り替えより詳しく記入するように指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望から在宅支援センターや役場等と何度も話し合いを重ねた結果在宅復帰を果たされた方もある。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや役場、他の施設や病院等と情報交換等を行い地域との連携を図ることでよりふさわしい個々のニーズやレベルあった施設等の紹介をする事も出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の継続を励行しており家族の協力を得てリハビリ等の通院を行っている方もある。ただ、家族の環境等による通院が難しく歯科、精神科などを含め提携医への移行も多いが柔軟に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は現場に入り定期的に夜勤も行うことで入居者の日中の状況だけでなく夜間帯の状況も把握し必要な事柄はアドバイスしている。医師(内・精神)、歯科医師との連携も十分出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった経過などの情報提供は積極的に行っている。また入院中も家族や相談員などとの連絡も密にとり状態の把握に努めて、適切な対応が出来るように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望がかなえられるように医師、看護師、介護者等が話し合いターミナルケアにも取り組んでいる。十分な説明とその都度家族の意向を確認し受け止め、何度も話し合い納得のいく最後をホームで迎えられるように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成と救急対応については事あるごとに話し指導している。緊急時の連絡体制も整備し機能している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を消防署の指導を受けて実施している。今年度は放水の実施も行った。職員の人数の少ない夜間設定での火災訓練は何度も繰り返し行う必要があると思っている。また地震に対する訓練も行い来年度は起震車での体験も予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの個性や誇り、思いを尊重するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己にて決定できる場面の提供を行っている。認知の重度化により自己決定出来ない利用者については職員本位にならないように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているがそれ以外は自由である。個々の希望や気分に対し柔軟に対応している。職員本位にならないように注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日会や特別行事日にお化粧を希望される方にはお化粧の手助けや定期的な理髪や毛染めの援助を行っている。また個別に化粧品や服など欲しいものがある時には希望に応じ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い調理している。献立を敢えてなくご利用者の要望を聞きながら提供するように努めることとしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や好み、形態に配慮し個々に合わせている。水分量も確保できるようおやつや食事で最低限摂取して必要な水分量は提供している。また糖尿病や高血圧症の方の食事は薄味や減塩に努め、食欲不振時は栄養補助剤の提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い衛生管理に努めている。また夜間には入れ歯は預かり消毒をし週1度は歯科医師、歯科衛生士の訪問診察をうけ口腔ケアの指導を受けている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力に合わせた介助を行っている。誘導する場合も時間帯や傾向を把握し失禁を減らしトイレでの排泄につながるよう努めている。またオムツを使用する場合も個々にあったオムツが選べるように専門家による講習会等に参加している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず食事、運動、腹部マッサージ等からも便秘予防に努めている。また朝トイレに座る習慣からも便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己にて入浴でき毎日入浴を希望される方には毎日入浴を提供している。介助が必要な方は時間帯や入浴日は決まっている。また今年度は念願の特浴が設置されたことでシャワー浴や清拭であった利用者も入浴して頂けるようになった。好評である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車いすの方で一日中車いすに座っている事は苦痛だと感じているので職員見守りのもとソファーに移動して頂いたり、昼食後はベットで休んで頂き身体的負担の軽減に努めている。夜間は不眠に対しては生活習慣改善に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は必ず声掛け、職員2人で確認誤薬の防止に努めている。食前薬、隔日投与や週1での投与に関しては投薬忘れ防止の為詰所に張り出すようにしている。薬の変更や増減時には副作用を説明し注意して観察報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見、運動会、バーベキュー等の年中行事は積極的に計画し全員参加を目指している。また今年は織部の里に絵付け体験に出かける等外出することや物を作成するという楽しみも味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人を思い思いの場所にお連れする事は出来ないが本人の希望を家族に伝え家族の協力を得て思いの場所に外出できるように働きかけている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族にお任せしている。家族に了承を経て小額のみを所持されている利用者もあるが紛失やトラブルの原因にもなりかねない為最低限にとどめている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書く支援はレクの一環として行っている。電話に関しては家族と相談のもと取り次ぎ可能な時間帯や頻度などを確認している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間の中での共同生活のため入居者それぞれが気持ちよく過ごせる空間作りに配慮している。車いすのスペースを考えてテーブルやソファの配置位置も変えてみるなど配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにはそれぞれの決まった場所がある様子。横になったりテレビを見たりお話ししたり自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	原則自由に持ってきて頂いているが、限られたスペースの中なので配慮はして頂くよう説明している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内には手すりを設置しており安全面での整備に努めている。出来る限りの対応を行い自立支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり(花水木棟)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成23年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(花水木棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より手を出すな・口を出すな・見落とすなフレーズを大切にしてきたが現在、新しい理念を検討している。笑顔を絶やさず一人一人が安心して生活が送れるようより良い施設を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では地域の代表者との関わりを持ち事業内容の報告や防災面では緊急通報システムへの協力が実現した。また地域行事へお誘いを受け参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談機関としての役割も果たしていると感じている。運営推進会議では現状の認知症についての話題や情報提供にも努めている。本年は支援学級(高校)の職場体験に施設開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の取り組みについて理解を深めて頂いている。また防災訓練の様子等も報告し地域住民の皆さんの協力を頂けるように働きかけ緊急通報訓練の実施をしたらどうか等積極的な意見を頂き計画をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町高齢福祉課や包括・在宅支援センター等の協働体制は整っている。お互いの情報の共有に努め協力しより一層地域連携に努めていきたいと思っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については「しないを原則」に取り組んでいるがご本人の安全、安楽の確保が出来ない場合や他入居者への影響がある場合はご家族に説明承諾を得た上で実施している。また不拘束委員会を立ち上げ定期的に話し合い見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無意識下での虐待に当たる行為や言葉の暴力が無いか見直している。講演会や勉強会などで意識付けを行っている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利を守ろうとする意識は高まってきているが、成年後見人制度については働きかけをするが制度面・家族理解面で難しいときがある。高齢者の尊厳保持の根幹に係わることであることを職員で共有し推進してゆきたい。研修はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族と十分話し合い合意の上で締結、解約、改定等を行っている。例えば、今年度の特浴導入時には家族会を開き部屋替え等にも全入居者家族の同意を得た上で実施した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人や家族の要望は可能な限りサービスに反映できるように職員間でも話し合う機会を設けている。また家族へは毎月のひまわり通信と共にこの1ヶ月間で起った出来事や変化等を記入し個別に情報提供している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度の3施設長会議により、それぞれの施設の報告と意見交換や要望を検討する機会が設けられている。会議で出た意見や提案に対して対応して頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児休暇や産前産後の対応等も整いつつあり若い職員も働きやすい環境になっている。また積極的な研修参加や資格取得の支援等にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力経験等と踏まえ積極的に外部研修等を推進している。また資格取得にも積極的でありケアの質の向上にも努める様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜GH協議会の幹部役員としても会議には積極的に参加しよりよいサービスの向上を目指し働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み後本人確認面談を行い情報を確認し支援内容を話し合います。出来るだけ家族、本人の希望がかなえられるよう心身ともに支援できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用までの経過や家族の思い家庭環境や関係等を傾聴時には共感やアドバイス等を通してより良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人面談や施設見学にて入居当日からスムーズな介護が提供できるように努めている。また医師の診療情報や前施設、支援センターへ情報提供をお願いしている。即時対応出来ない場合は他の事業所への仲介やアドバイス等を行う支援は多くある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさが表現できるような介護を心がけている。また職員は自分の家族であるかのように接する事を心がけ共に笑い、怒り、感動できる関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちやそれぞれの立場などを尊重し個々の家族にあった対応に心がけている。また家族との連携にも心がけ日常の様子などを1ヶ月に1度は手紙にして報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着となりご近所の方や知り合いの方の入居も多くなってきた。昔話に花が咲くと言うような場面も多くみられている。ご家族への配慮も必要であり希望があれば棟を変える等の配慮もしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係には配慮している。一緒にいて悪影響となる場合など部屋替えや棟を変える等の配慮をする場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰又は長期入院後も、状況や他サービスへの移行の場合でも情報提供は積極に行いその後の経過も出来る限り把握し、支援できるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向を出来るだけ把握できるようにご家族や前サービス事業者などからも情報収集を行いサービスに生かす事が出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前サービス事業者等と入居前より関わり情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活状況や家庭環境。性格や趣味、認知症原因疾患やその程度など本人確認は無論のこと家族、前施設やサービス提供者等からも情報提供が得られ対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントツールをひもときネットへと変更し、よりご本人や家族の希望が反映でき、入居者一人一人に即した介護サービスが提供できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼間の様子や夜間の様子、体温などのバイタルサインの記入と必要事項を的確に記入するようになっている。また発熱等の状態変化やいつもと違う様子等の記入の必要があれば重症記録に切り替えより詳しく記入するように指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望から在宅支援センターや役場等と何度も話し合いを重ねた結果在宅復帰を果たされた方もある。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや役場、他の施設や病院等と情報交換等を行い地域との連携を図ることでよりふさわしい個々のニーズやレベルあった施設等の紹介をする事も出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の継続を励行しており家族の協力を得てリハビリ等の通院を行っている方もある。ただ、家族の環境等による通院が難しく歯科、精神科などを含め提携医への移行も多いが柔軟に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は現場に入り定期的に夜勤も行うことで入居者の日中の状況だけでなく夜間帯の状況も把握し必要な事柄はアドバイスしている。医師(内・精神)、歯科医師との連携も十分出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった経過などの情報提供は積極的に行っている。また入院中も家族や相談員などとの連絡も密にとり状態の把握に努めて、適切な対応が出来るように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望がかなえられるように医師、看護師、介護者等が話し合いターミナルケアにも取り組んでいる。十分な説明とその都度家族の意向を確認し受け止め、何度も話し合い納得のいく最後をホームで迎えられるように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成と救急対応については事あるごとに話し指導している。緊急時の連絡体制も整備し機能している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を消防署の指導を受けて実施している。今年度は放水の実施も行った。職員の人数の少ない夜間設定での火災訓練は何度も繰り返し行う必要があると思っている。また地震に対する訓練も行い来年度は起震車での体験も予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの個性や誇り、思いを尊重するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己にて決定できる場面の提供を行っている。認知の重度化により自己決定出来ない利用者については職員本位にならないように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているがそれ以外は自由である。個々の希望や気分に対し柔軟に対応している。職員本位にならないようには注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生日会や特別行事日にお化粧を希望される方にはお化粧の手助けや定期的な理髪や毛染めの援助を行っている。また個別に化粧品や服など欲しいものがある時には希望に応じ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い調理している。献立を敢えてなくしご利用者の要望を聞きながら提供するように努めることとしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や好み、形態に配慮し個々に合わせている。水分量も確保できるようおやつや食事で最低限摂取して必要な水分量は提供している。また糖尿病や高血圧症の方の食事は薄味や減塩に努め、食欲不振時は栄養補助剤の提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い衛生管理に努めている。また夜間には入れ歯は預かり消毒をし週1度は歯科医師、歯科衛生士の訪問診察をうけ口腔ケアの指導を受けている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力に合わせた介助を行っている。誘導する場合も時間帯や傾向を把握し失禁を減らしトイレでの排泄につながるよう努めている。またオムツを使用する場合も個々にあったオムツが選べるように専門家による講習会等に参加している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず食事、運動、腹部マッサージ等からも便秘予防に努めている。また朝トイレに座る習慣からも便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員が特浴対象者であり入浴時間帯や入浴日は決まっている。今年度は念願の特浴が設置されたことでシャワー浴や清拭であった利用者も入浴して頂けるようになった。気持ち良いと好評である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車いすの方で一日中車いすに座っている事は苦痛だと感じているので職員見守りのもとソファーに移動して頂いたり、昼食後はベットで休んで頂き身体的負担の軽減に努めている。夜間は不眠に対しては生活習慣改善に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は必ず声掛け、職員2人で確認誤薬の防止に努めている。食前薬、隔日投与や週1での投与に関しては投薬忘れ防止の為詰所に張り出すようにしている。薬の変更や増減時には副作用を説明し注意して観察報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見、運動会、バーベキュー等の年中行事は積極的に計画し全員参加を目指している。また今年は織部の里に絵付け体験に出かける等外出することや物を作成するという楽しみも味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人を思い思いの場所にお連れする事は出来ないが本人の希望を家族に伝え家族の協力を得て思いの場所に外出できるように働きかけている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族にお任せしている。家族に了承を経て小額のみを所持されている利用者もあるが紛失やトラブルの原因にもなりかねない為最低限にとどめている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書く支援はレクの一環として行っている。電話に関しては家族と相談のもと取り次ぎ可能な時間帯や頻度などを確認している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間の中での共同生活のため入居者それぞれが気持ちよく過ごせる空間作りに配慮している。車いすのスペースを考えてテーブルやソファの配置位置も変えてみるなど配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋の中に一人で居る事が落ち着く入居者もあり自分の思い思いの空間で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	原則自由に持ってきて頂いているが、限られたスペースの中なので配慮はして頂くよう説明している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	棟内には手すりを設置しており安全面での整備に努めている。出来る限りの対応を行い自立支援を行っている。		